

徳島県民の木造戸建て住宅外観デザインの選択と社会への意識

建築計画 住宅
 シンプルデザイン 和風住宅 洋風住宅
 共分散構造モデル 社会問題

正会員 ○多田 豊*
 非会員 松永 健吾**

1. はじめに

住宅地等で住環境を形成する大きな要因として、住宅の外観デザインがある。しかしながら、建築協定や地区計画、もしくは外観に関するガイドライン等が存在しない住宅地が多く、シンプルなお外観や洋風の外観、和風の外観等が混じった統一感のない住環境を形成しており、社会問題となる場合もある。

個人の住宅は個人の所有物であるが、同時に外観は社会を形成する要素であり、その外観デザインの選択には何らかの社会への意識が影響しているのではないかと考えた。

そこで、徳島県民を対象に、外観デザインと社会への意識に関するアンケートを行い、その関係性を明らかにする。

2. 外観デザインの選択

アンケート調査を次のように実施した。

- ・対象：ネット調査会社に登録する徳島県民
- ・配信数：23,955 人
- ・回答数：403 人（回答率：1.7%）

外観デザインに関する質問では、外観デザインの名称について専門用語ではなく、一般の方が理解しやすい名称とするため、徳島県内版の住宅雑誌から外観デザインに関わる名称を抽出した。また、その名称と合致する住宅の外観の写真を添付した。

外観デザイン選択の割合をみたのが図1である。全体として最も選択されたのはシンプルモダン（21%）であり、次いで和風モダン（19%）であった。

男女別でみると、男性は女性よりも10ポイント程度、和風モダンを選択した。母比率の検定を行ったところ5%水準で有意となった。

婚姻関係、子どもの有無では明確な差を見出すことができなかった。

年齢別にみると、20歳代、30歳代に比較し、40歳代はシンプルモダンを選択する割合が多くなったが、母比率の検定を行ったところ有意ではなかった。年齢が上昇

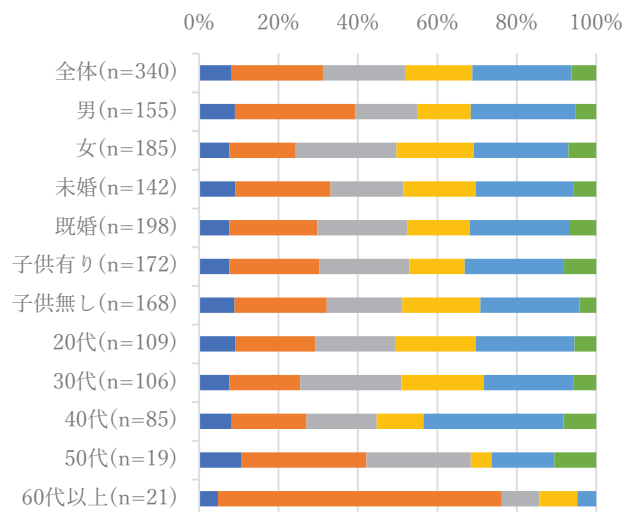


図1 外観デザイン選択の割合

A study on facade design of houses selected by Tokushima residents and their awareness of social issues.

Dr. Yutaka TADA*, Kengo MATSUNAGA**

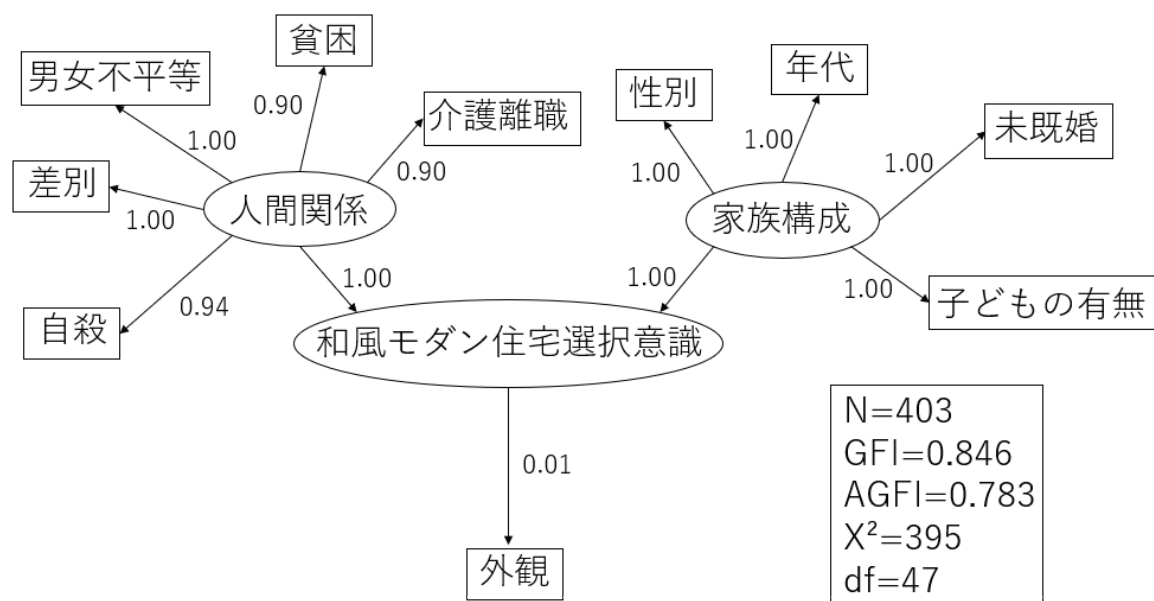


図2 人間関係に関わる社会問題等への関心と和風モダンを選択する意識

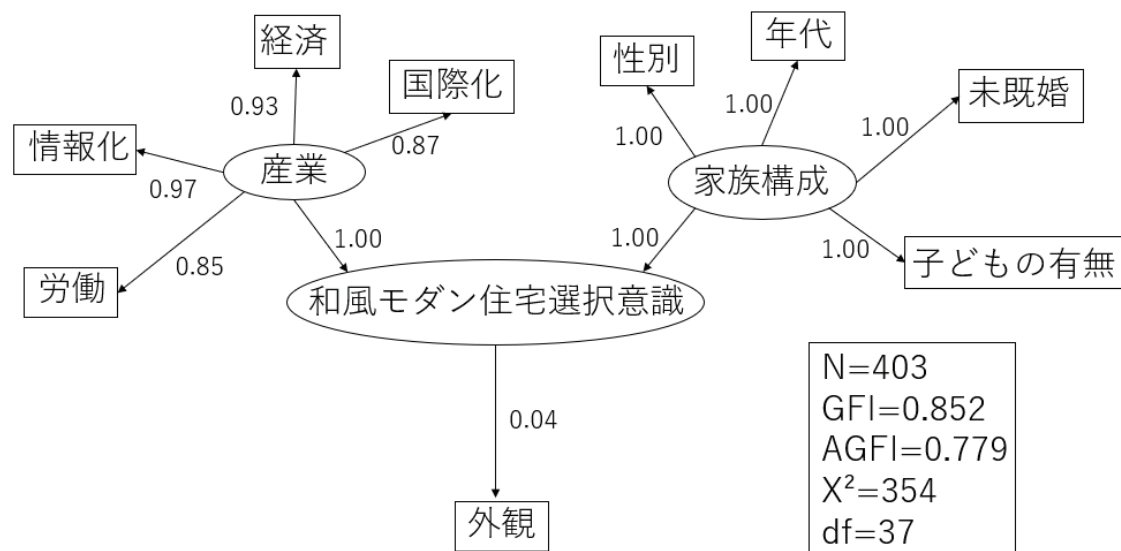


図3 産業に関わる社会問題等への関心と和風モダンを選択する意識

するほど、和風モダンを選択する割合が増加し、50歳代で約3割、60歳以上で約7割が選択した。母比率の検定を行ったところ5%水準で有意となった。

3. 社会への関心と外観デザイン選択

社会への関心に関する質問と外観デザイン選択の関係性をみる。なお、社会への関心は、人間関係に関わる社会問題と産業に関わる社会問題とした。

人間関係に関わる社会問題等への関心と和風モダンを選択する意識の関係性についてみたのが図2である。人間関係に関わる社会問題への関心が高いほど、シンプルモダンを選択する意識につながることが明らかになった。

次に、産業に関わる社会問題等への関心と和風モダン

を選択する意識の関係性についてみたのが図3である。産業に関わる社会問題への関心が高いほど、シンプルモダンを選択する意識につながることが明らかになった。

今後、他の社会問題や異なる外観デザイン選択等を用いて意識を明らかにしていく。

本研究は令和3年度に阿南工業高等専門学校に提出した卒業論文の一部を再構成したものである。本研究の実施にあたり、株式会社姫野組住宅センターより多大なるご協力を頂きました。記して感謝いたします。

*阿南工業高等専門学校創造技術工学科准教授・博士（工学）

*National Institute of Tech., Associate professor, Dr.Eng

**株式会社スバル設計 **SUBARU Architect Office CO.,LTD.